

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ファーストシーンドリームー之江			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 27日		～	2025年年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数)	12人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～	2025年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な年齢層でのかかわりを持てる。	多機能事業所であるため、異年齢交流ができる。	グループで行う活動についてはさまざまな年齢の児童が入るよう工夫し、異年齢でのかかわりができるような環境を設定している。
2	粗大運動、微細運動の活動を多く取り入れており、指先から全身を使う動きの練習機会がある。	児童のニーズが高い活動を取り入れている。	児童の習熟度に応じてグルーピングを行い、同じ速度感で活動を取り組めるようにしている。
3	子ども達同士で教室内のルール、過ごし方を話し合う機会を設けている。	教室内のルールは視覚化し児童が自分で考えることができるようになっている。 ルールに定められていないことは、他者がどのように感じるかを確認しながら子ども達自身で決めている。	自己選択の機会を提供している。 自由時間も多く設け、遊びたいものを決めるといったスモールステップで自己選択の練習をしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動が好きな児童が多く、落ち着いて過ごす時間を増やせると良い。	動きがある遊びをメインで行っているため、自制できない場面になると騒がしくなることに繋がっている。	来室からのルーティンの定着を勧めつつ、自制心の向上に繋がる活動を取り入れていく。
2	活動がやや固定化している。	難易度の調整が難しく、発展した活動へ繋げることが現状できていない。	利用児童の特性についての再アセスメントを行うとともに、既存の活動を発展させたものから新しい取り組みを行っている。
3			